

うどんまるごと循環プロジェクト始動
(1/13)

「うどん県」香川でまたユニークな取り組みです。廃棄されたうどんを燃料として再利用するプロジェクトの初めての会合が高松市で開かれました。これはうどんを作る際に出るゴミや食べ残しなどを使ってバイオエタノールや堆肥を作りうどん店で燃料などとして再利用しようという全国でも珍しい試みで、循環型社会を目指し高松市や民間企業などが共同で行うものです。初会合では廃棄うどんの処理量を年間50トンを目標にすることなどの事業計画案や運用方法などについて話し合われました。冷凍うどんからバイオエタノールを作る技術は今回参加する高松市の産業機械メーカーが2年前にすでに開発していてプロジェクトチームは「うどん県」である香川県を環境面でも全国にアピールしていきたいとしています。



うどんまるごと循環プロジェクト

1/13 18:00

香川が誇る名物の讃岐うどんを「燃料」として再利用しようというプロジェクトがスタートし、きょう、初めての総会が開かれました。

「コシが命」の讃岐うどん。

ゆでてから時間がたったうどんは生ゴミとして捨てられているのが現状です。

処分されるうどんを「資源」として生かそうと、うどん業界や企業、大学などから関係者18人が集まり、「うどんまるごと循環プロジェクト」がスタートしました。

プロジェクトでは、廃棄されるうどんを回収。

バイオエタノールに換える装置を使って再生し、うどん店でボイラー燃料として再利用したり、たい肥にしてうどん用小麦の肥料にします。

来年度末までのモデル事業で、再利用によりうどんの廃棄物を15トン、二酸化炭素を11トン削減できるといことです。

会では広く支援を募り、循環システムの構築を目指したいとしています。